

質疑応答の概要

(教員) マルコビッチ副学長からの回答

No.		質問内容
1	Q	遠隔授業を要請するにいたった経緯を教えてください。
	A	ウクライナ・ハルキウ州出身である山梨大学の職員であるフォミチョヴァ・クセニヤさんを通じて、授業提供について要請した。クセニアさんから茅副学長に話があり、島田学長へ相談したところ、今回のプロジェクトに賛同いただき、非常に早く授業配信を実現してくださった。
2	Q	今回、山梨大学からの遠隔授業の配信が実現したことについて、国立航空宇宙大学側の受け止めを教えてください。
	A	戦渦でも学びを諦めない学生の情熱に改めていただき、島田学長はじめ、今回の授業配信に尽力いただいた山梨大学の先生方に感謝している。このプロジェクトのことは、ウクライナ国内に広がり、政府にも伝えられ、国際レベルの大きなプロジェクトとなろうとしている。また、教育支援のみならず、ウクライナの将来への希望へと繋がり、人々の心の支えとなるプロジェクトである。
3	Q	現在の国立航空大学の状況について教えてください。 (大学建物の被害の状況や授業を再開できる状況にあるのか、また大学周辺の人々の生活の様子など)
	A	大学のあるハルキウは、被害が大きい都市のうちの一つで、侵攻の開始時から、ロシアの戦車が来ていた。大学のキャンパス構内にある学生寮やスポーツセンターなどの建物も破壊され、とても危険な状況である。
4	Q	国立航空宇宙大学に通われている学生の現在の状況について教えてください。 (学生は国外に避難しているのかもしくは市内に残っているのか？ その中で遠隔授業を受けることができる状況にあるのか、もしくはこういった環境で配信を受けることになっているのかなど)
	A	留学生は、自国へ帰国したが、国外へ避難できない学生や大学周辺の住民らが大学構内の地下に避難している。大学が一丸となり、食事の提供や避難している学生らの生活の支援を行っている。避難している学生のパソコンなど通信機器が不足しているため、確保するために政府へ要請している。
5	Q	命も脅かされ、学生の授業の場が失われる状況を教員側としてどう受け止めているか、教えてください。
	A	教員にとっても戦争の経験は初めてで、パニックに陥っている状況であるが、学生の学びへの情熱に伝えるため、教育を続けられるように大学に残っている教員で対応している。今回の山梨大学の迅速な対応にとっても感謝している。
6	Q	日本と山梨大へのメッセージや遠隔授業の他に求めている支援があれば教えてください。
	A	今回の経験から、コロナウイルス感染症によるパンデミックや戦争など、あらゆる問題が生じたときに対応すべく、国際的な教育システムを構築するべきである。このプロジェクトをモデルケースとして、さらに発展させ、どんな状況にあっても学生に教育ができるシステムを構築したい。

(学生) アリョーナヴェブリツィカさんからの回答

No.		質問内容
1	Q	国内で起こっている状況をどう受け止めているのか教えてください。
	A	この状況は、とても悲しい。家族と離れ、シンガポールへ避難してきたが、いままで海外にいきたいと思っていたけど、いまは、安全な家に戻りたい。
2	Q	現状の学習状況、勉強できる環境について教えてください。
	A	避難先でネット環境があり、PCも手元にあるので、授業を受講できる状況にある。避難先でもいつでも受講できるオンデマンド方式がとても便利。
3	Q	遠隔授業を受けた感想をお聞かせ下さい。
	A	このプロジェクトは、私たちにとっては大きなチャンス。とても感謝している。今回受講しているAIの授業がとても面白く、色々な分野の授業が受けられるようになってほしい。担当教員と対面で通信できることを楽しみにしている。
4	Q	今回の授業配信で何を学び、今後どのように生かしたいかお聞かせ下さい。
	A	色々な分野の授業を受けたい。この大変な状況下でもとにかく勉強ができるのが嬉しい。戦渦でもこのプロジェクトを通して、学ぶことができることは、わたしたちの将来への希望となる。
5	Q	今後の夢をお聞かせ下さい。
	A	今の夢は一つ。避難先から安全な家に戻り、ウクライナのために明るい将来をつくりたい。